

100周年記念
『モノクロームの世界』部門
 連載100回突破記念特集

カラーの写真とは違う味わいを与えるモノクロ写真。ここでは読者の方から寄せられた、それぞれの『モノクロームの世界』をご覧ください。



最終選考作品

Dean 「Murray River」
 (キャンプ先で早朝に撮りました。静かで川面が鏡のようでした。写真を逆さにしても同じ風景が見えます)

「作品右側の水面から突き出した物が作品にアクセントを与えているので、左側から全体の3分の1ほどトリミングすると、もっと印象的な写真になるでしょう」



最終選考作品

ゲン 「Welcome to New World」 (生後2日目の息子の写真をモノクロで撮りました。早熟な感じがします)

「とてもカワイイですね。被写体の質感や雰囲気などがとても良く撮れています」



最終選考作品

Nagahata Kenji 「ひるのひかり」 (冬の紫外線対策、してますか?)
 「作品の構成を見ると上部が少し重く感じるので、一歩前に出て撮っていたら、最上部の被写体が入らなくなり、すっきりとした構成になったでしょう」



最終選考作品

みか 「パース」 (オーストラリアの見慣れた景色)

「作品内の全てがシャープに撮られていて、それぞれの被写体の距離感が分かりにくいので、街がまるでおもちゃのように見えます。おもしろい作品ですね」



最終選考作品

Tomoyuki Okubo 「夜」 (なんだかミステリアス)

「作品中央の被写体の光が下部の被写体に比べ強いので、少しディテールが消えています。下部を撮るための露出は丁度良いと思います。見せたい方の被写体に露出を合わせると良いでしょう」



最終選考作品

しんぼ 「瀬渡し」 (働く男はカッコいい)

「被写体の人物の位置をもう少し作品の右側に置くと、人物の顔がもっと見えると同時に、顔の向きの方向にスペースができて、作品全体のバランスが良くなりますよ」